

【平成28年度 道路の老朽化パネル 展示状況】

管理者	展示場所・日時
国土交通省 京都国道事務所	京都国道事務所(4/1~3/31)
	道の駅「ガレリアかめおか」(4/1~3/31)
	道の駅「丹波マーケス」(4/1~3/31)
	下京税務署(8/29~9/9)
	京阪電車 清水五条駅(9/2~9/5)
阪神高速道路(株)	阪神高速道路(株)(8/5~8/31)
京都府	京都府庁(8/26~9/25)
	京都府庁(10/4~10/11)
向日市	向日市役所(8/22~8/31)
長岡京市	長岡京市役所(9/1~9/9)
大山崎町	大山崎町役場(8/23~8/31)
城陽市	城陽市役所(8/24~9/23)
久御山町	久御山町役場(9/1~9/20)
八幡市	八幡市役所(9/8~10/7)
井手町	井手町役場(8/16~9/30)
宇治田原町	宇治田原町役場(9/8~10/31)
木津川市	木津川市役所(8/12~9/11)
笠置町	笠置町役場(8/31~9/30)
和束町	和束町役場(8/15~8/19)
精華町	精華町役場(8/22~12/28)
南山城村	やまなみホール(8/22~8/29)
亀岡市	亀岡市役所(9/5~9/23)
南丹市	南丹市役所(8/12~8/31)
京丹波町	京丹波町役場(9/5~10/4)
綾部市	綾部市役所(9/8~9/14)
	綾部市役所(10/3~11/1)
舞鶴市	舞鶴市役所(9/1~9/14)
福知山市	福知山市役所(8/19~9/16)
宮津市	宮津市役所(9/1~9/15)
京丹後市	京丹後市役所(8/10~12/28)
与謝野町	与謝野町役場(9/1~9/30)

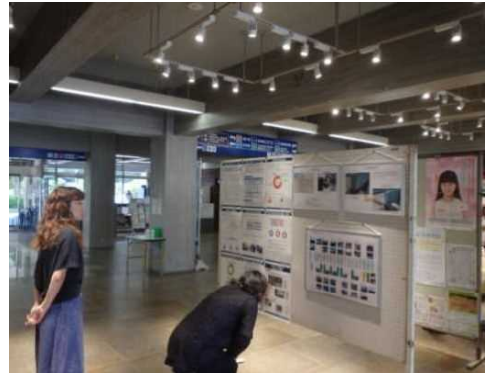
＜京都府庁＞



＜福知山市役所＞



＜舞鶴市役所＞



＜道の駅「マーケス」＞



＜道の駅「ガレリアかめおか」＞



＜京都国道事務所＞



国道1号 五条大橋「長寿を祝う会」を行いました。

【日時】平成28年9月3日(土) 9:00~9:30
 【場所】五条大橋(国道1号) 西詰め「牛若ひろば」
 【目的】五条大橋をよく知って頂き、末永く地元で親しまれ、大事に使って頂けるように、「長寿を祝う会」を行いました。
 【参加者】京都市、五条大橋をきれいにする会((公社)下京納税協会)、NPO うるわしのまち・みちづくり 下京税務署、きょうと留学生ハウス、西日本高速道路(株)、京都国道事務所他



挨拶 馬渡 真吾 京都国道事務所長

橋は、きちんと補修をして大切に使用していけば、何十年、百年ともつものであります。地域の皆様とともに大切に管理し、使っていくということが重要です。今日の長寿祝い及び橋洗いを通して、橋を大事に、そして末永く使っていくことを、皆様とともに、改めて共有する日にしたいと思います。

祝 辞



田中 伸弥 様
京都市 建設企画課長

公共の施設は適切な維持管理、大事にしていくということが非常に大事です。本日の橋洗いで、いつまでも長く保たれることを記念してお祝いの言葉とさせていただきます。



浦尾 たか子 様
五条大橋をきれいにする会

五条大橋は私たちの共通のインフラ財産、ライフラインを支える重要な役割を担っている大切な橋です。「橋洗い」を通じてインフラ整備の大切さを広げたいと思います。

五条大橋にまつわる話



鷲頭 雅浩 様
京都市 東山区長

五条大橋は平安時代から京都では一番重要な橋として位置づけられていた。下京区と東山区を結ぶ橋として愛され、きれいな橋として続いていくことを心より記念したい。



田中 信行 様
料理旅館「鶴清」

五条大橋は小さい頃から渡っていた。五条大橋を守るために何かをする。橋洗いはその心掛け。国交省だけでなく、地元の人間は何かすると言うことが大事。

五条大橋 長寿祝いパネル展



下京税務署



清水五条駅(京阪)

2 五条大橋の変遷



平安時代、現在の五条通は六条坊門小路と呼ばれていました。六条坊門小路の鴨川には橋が無く、豊臣秀吉が天正18年(1590年)に当時の五条通(現松原通)の橋を、現在の場所に移建しました。現在の橋になるまでには、洪水・大火などで幾度も改築されています。明治時代は木製の幅6mの橋でしたが、昭和34年(1959年)に架け替えられ、今の姿になりました。

リーフレットと五条大橋「橋洗い」参加記念カード



五条大橋(京都府京都市)

五条大橋「長寿祝い」「橋洗い」の参加者にリーフレットと記念カードを配布



データ
 名: 五条大橋
 所在地: 京都府京都市東山区・下京区
 路線名: 国道1号
 形式: 3径間連続鋼非合成板桁橋
 架設年次: 昭和34年
 橋長・幅員: 67.2m・35.0m
 管理者: 国土交通省

牛若丸と弁慶の伝説がある橋。現在の橋は、五条通が国道に指定されたのを機会に架け替えられました。高橋の礎宝珠は旧橋から引き継がれています。



京都
橋のある暮らし
Bridges in Kyoto

五条大橋の紹介
 橋の歴史
 橋を守る
 橋を大切に使う



五条大橋 長寿祝い、第2回橋洗い

平成28年9月3日(土)
五条大橋をきれいにする会(下京納税協会)、国土交通省京都国道事務所

京都

橋のある暮らし

Bridges in Kyoto

- 五条大橋の紹介
- 橋の歴史
- 橋を守る
- 橋を大切に使う

鴨川周辺 数珠マップ付!

鴨川に架かる橋を分かりやすくご紹介!

橋梁の基礎知識

①橋の構造と用語

基礎 橋の構造物から力を地盤に伝え、構造物を支える部分。また、その際に地盤が沈下しないように作られる。

橋脚 橋を下から支える柱。橋台の間に配置される。

橋台 橋と道路などが接合する橋の両端を支えている場所にある土台。

橋長 橋全体の長さ。

橋脚間 橋脚など支点と支点の間。

主桁 上部構造からの垂直方向に働く荷重を下部構造に伝える桁。

主床 橋の桁で、人や車が通るところ。

支承 橋造と下部構造の接点に設置される部材。橋の多くは、上部構造と下部構造を固定して結合させ、支承によりある程度自由度を持たせておいています。温度の変化や風、地震などによる橋のたわみを吸収するためです。

上部構造 橋の構造は、上部構造と下部構造に分かれます。上部は、橋にのり載る部分で支承より上の部分となります。下部構造は、上部構造と下部構造に分かれます。下部構造は、上部構造を下から支える部分。

②橋の構造と用語

●形式による主な種類

- 桁橋 橋の最も単純な形式。最も多く見られます。
- 吊橋 橋を吊り下げている橋。
- トラス橋 三角形を組み合わせる橋。
- アーチ橋 アーチの構造を利用した橋。見た目よく作られた形式です。
- 斜張橋 橋脚を境に斜めにケーブルで引っ張っている橋。見た目よく作られた形式です。
- 平行径トラス橋
- 連続ラーメン橋
- 上流式アーチ橋
- ハープ形斜張橋

●使用材料による主な種類

- 石橋 石を使った橋
- 鋼橋 鋼材を使った橋
- 木橋 木材を使った橋
- RC橋 鋼筋コンクリートを使った橋
- PC橋 プレストレスト・コンクリートを使った橋
- PRC橋 RCとPCを使った橋

出典：(一社)建設コンサルタンツ協会
土木ツアー / 土木の基礎知識 / 橋梁の基礎知識

五条大橋

出典：国立国会図書館蔵 京都名勝 明治40年7月

国土交通省 近畿地方整備局
京都国道事務所

〒600-8234
京都市下京区西洞院通小路下南不動堂町 808
TEL:075-351-3300(代)
URL: http://www.kkr.mlit.go.jp/kyoto/

道路の異状を発見したら
道路緊急ダイヤルへお知らせ下さい。 #9910 24時間 無料受付

五条大橋の紹介

鴨川に架かる橋で一番幅が広く、交通量が多い。暮らしを支える五条大橋。

概要
道路名：一般国道1号
橋の種類：鋼橋(3径間)
橋長：67.2m 全幅員：36.0m 昭和34年3月竣工

牛若丸と弁慶
平安時代の末に牛若丸と弁慶が五条大橋で出会ったとの伝説があります。このため、五条大橋の西側に牛若丸と弁慶のモニュメントが設置されています。

五条大橋のデザイン
現在の橋に架け替えるに当たっては、京都市の交通動脈を担う橋として、現代技術と美の粋を集めた鋼製橋として架設されました。しかし高橋については、旧橋と同じ木製としたい地元の要望と近代橋を主張する建設者や学識者の間で議論がありました。最終的には両方の意見を生かして、高橋は、原型を模した石造りとし青銅製の擬宝珠は旧橋のものをそのまま活用することになりました。

橋の歴史

五条大橋の変遷

平安時代、現在の五条通は六条坊門小路と呼ばれていました。六条坊門小路の鴨川には橋が無く、豊田秀吉が天正18年(1590年)に当時の五条通(現松原通)の橋を、現在の場所に移建しました。現在の橋になるまでには、洪水・大火などで幾度も改築されています。明治時代は木製の幅6mの橋でしたが、昭和34年(1959年)に架け替えられ今の姿になりました。

天正2年以前でそれに近い時期の五条橋
<右隻 第一高>
出典：国宝 上杉本 洛中洛外図屏風

<五条の橋1 (撮影：黒川翠山)>
出典：京都府立総合史料館 京の記憶アーカイブ
この頃の鴨川の浅かったことがよく解ります。周囲の家の高さから推測すると、平屋の高さくらいしか無かったようです。高い建物が無く東山が見渡せます。

<五条の橋2 (撮影：黒川翠山)>
出典：京都府立総合史料館 京の記憶アーカイブ
上の写真は翠山の写真ですが、明治14年(1881年)よりも後から撮影されたものです。人力車が写っています。現在では観光地で観光客専用となっていますが、当時は生活の足として活躍していた事がうかがえます。

昭和10年(1935年)の大水害の様子
<出水当時 五条大橋(左岸より)>
出典：京都府京都市土木事務所
五条大橋の被害は大変大きかったようで、両岸の一部が残らなかったようです。橋脚も橋桁も跡形なく流されています。

五条大橋の下側
橋の下側には、情報管路・ガス管・電気のライフラインが収用されていますが、五条大橋には、本願寺水道とい、琵琶湖疏水の麓上から本願寺まで防火用水を引くための水道管が設置されています。
(琵琶湖疎水・琵琶湖の湖水を京都市へ運ぶために作られた水路)
また、大規模地震発生時幹線道路としての機能が確保できるように、地震時の衝撃を緩和するとともに、落橋することのないよう減衰装置と緩衝チェーンを設置しています。

橋を守る

道路施設の老朽化の現状

道路施設の管理体制
日本の道路は、道路種別に応じて複数の機関が管理しています。道路施設としての橋梁は、約72万橋あり、このうち地方公共団体が管理する橋梁が約66万橋と全体の9割以上を占めています。

【円グラフ：道路種別の橋梁数】
高速自動車国道 約20,000橋(3%)
国道 約14,000橋(2%)
市町村道 約520,000橋(72%)
出典：道路局調べ (H26.12時点)

高齢化する道路施設
全国約72万橋のうち建設年度別の橋梁数の分布を見ると、昭和30年から50年にかけて建設されたものが約26%と多く占めています。

15年間の点検率と平成26～27年度の点検状況

橋梁	10%	18%	23%	25%	25%
橋梁	10%	18%	23%	25%	25%
トンネル	30%	14%	10%	11%	31%
道路附属物	8%	22%	25%	18%	25%

平成27年度の点検結果として、京都市内の橋梁点検により通行止めの緊急処置を行った橋梁が7橋ありました。

メンテナンスサイクルを継続的に回す仕組みを構築
平成27年度に「京都府道路メンテナンス会議」を設置。重要性、緊急性の高い橋梁などは、必要に応じて国や高速会社等が点検や修繕等を代行します(跨道橋等)。

橋を大切に使う

清掃・美化活動

京都国道事務所管内で、ボランティア・サポート・プログラム(略称：VSP)の協力を得て「橋」の清掃・美化等の維持管理に参加している団体を紹介いたします。

めぐね橋ふれあい会(亀岡市篠町自治会・町つり推進会)
実施区域：一般国道9号 王子橋(通称がね橋)
活動内容：土木学会から「選奨土木遺産」に認定された、王子橋(通称：がね橋)の清掃をされています。
※王子橋は、田邊朝郎氏(「琵琶湖疎水」の設計者)が設計された橋です。

五条大橋をきれいにする会(公益社団法人下京納税協会)
実施区域：一般国道1号 五条大橋
活動内容：地域のシンボルである五条大橋で、「橋洗い」をしています。

めぐね橋ふれあい会の皆さん
橋洗いされる下京納税協会
擬宝珠を雑巾で磨きました
五条大橋をきれいにする会の皆さん

かもおほし
① 賀茂大橋

道路名：一般府道 銀閣寺宇多野線
橋の種類：鋼橋(8径間) 橋長：141m 幅員：23.2m
架設年次：昭和6年(1931年)

賀茂大橋は、大正期から昭和初期に整備された京都市区改正設計の一部として、今出川川の鴨川に架けられました。この橋のすぐ上流で鴨川と高野川が合流し、鴨川に架かる橋としては最長です。8径間からなり、流水部と遊歩部では、橋の上部の構造が異なっています。もともこの橋は9径間あり、川瀬通側に1径間多い構造でしたが、京阪電鉄鴨東線(地下線)の建設に伴い、東側が1径間短縮され、現在の8径間になりました。また、この橋は、京都市役所本庁舎を設計した著名な建築家武田五一氏が設計を手掛けており、路上には本影石で造られた重厚な高欄と灯籠照明が備えられています。この石製高欄や灯籠照明の和風で重厚な印象と、当時の最先端技術が用いられた美しく軽やかな鋼製の橋脚は、各々が個性的でありながら調和が取られ、地域のシンボルとして周辺の景観とも馴染み、京を代表する橋の一つに挙げられます。



こうじんはし
② 荒神橋

道路名：一般市道 春日橋6号線
橋の種類：鉄筋コンクリート橋 橋長：110m 幅員：10.7m
架設年次：大正3年(1914年)

荒神橋は、嘉永7年(1854年)仙洞御所の火災により聖徳院へ移された孝明天皇が、焼け残った桂宮御殿へ入られるために架けられたとされ、別名「御幸橋」「聖王橋」とも呼ばれました。当時は、西本願寺の出家により現宝珠勾欄を備え、天皇が通行されるにふさわしい木橋だったといわれています。現在のコンクリート橋構造になったのは大正3年、桁橋において、鉄筋コンクリートが本格的に応用されたのは、荒神橋が初めてです。名前の由来となったのは清荒神護浄院(天台宗)。「荒神さん」と呼ばれる鳥の守護神で、約1200年前、開成親王(光に天皇の皇子)が御尾山(大府府箕面市)を開いた時に出現した荒神を祀ったのが始まりとされ、後の天皇の勅命により2度場所が移され、現在の場所(京都御苑の東側)に移りました。



さんじょうおほし
③ 三条大橋

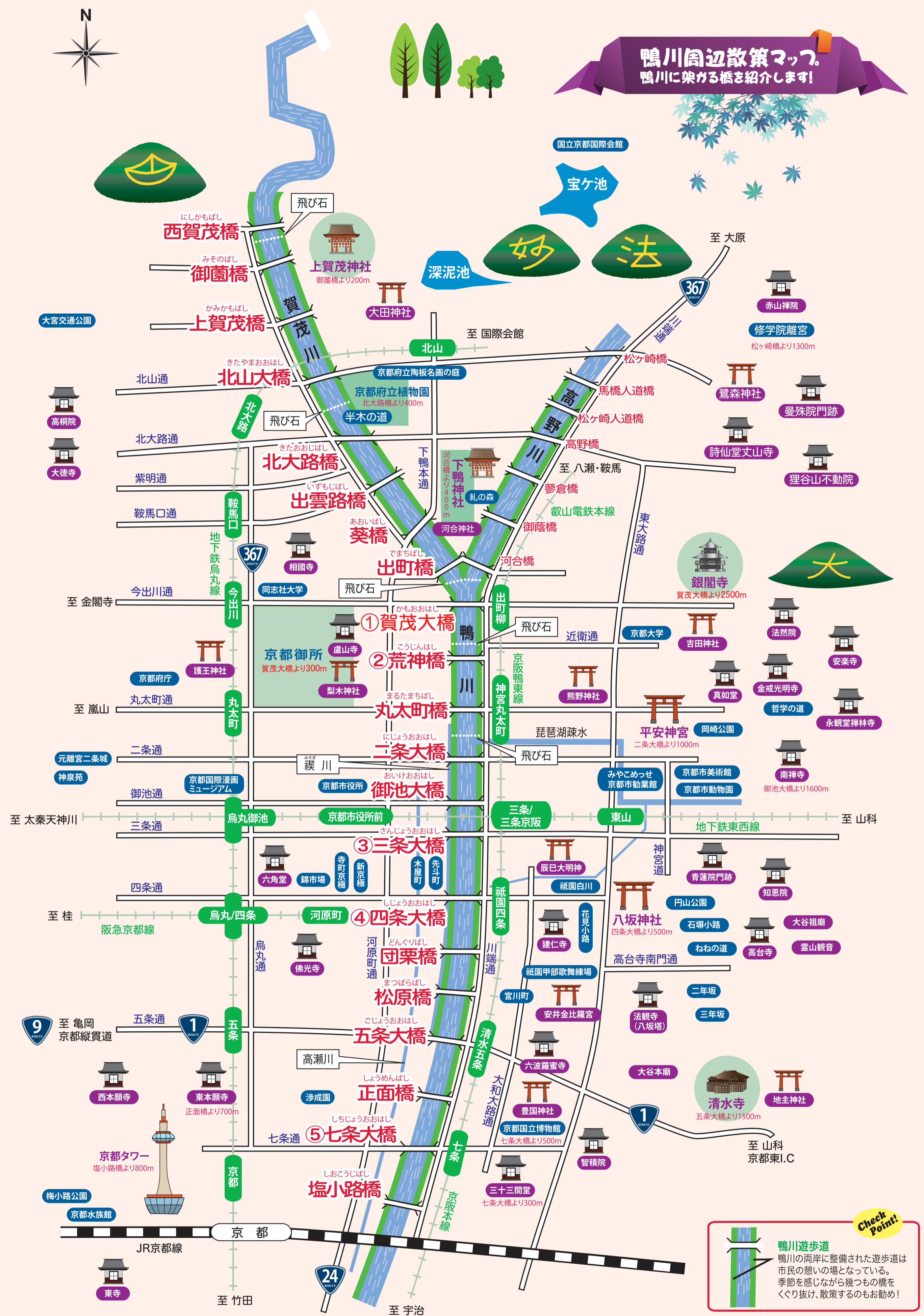
道路名：一般市道 三条通
橋の種類：鋼管橋脚型橋 橋長：73m 幅員：16.7m
架設年次：昭和25年(1950年)

京都市で有名な橋といえばこの橋を挙げる方も多いのではないのでしょうか。東海道五十三次の西の起点であり、我が国最初の駅伝(※)のスタート地点にもなりました。初めは遠く室町時代の造営とされており、天正18年(1590年)に豊臣秀吉が大改修を行い、現在の形となりました。その後、元禄、明和、大正に架け替えられ、現在の橋は、昭和25年(1950年)に架けられたものです。この橋の高欄の欄干(石製)は、青銅製でよく見ると彫刻が施されています。おもその意味としては、「京三条の橋は、後代まで往來する人々の助けとなる。しっかしした基礎(地中に五環(むご)の(約9.1m)の深さまで入り、切石の橋柱は63本あり、まさに日本の石柱橋としては最初のものだろう。天正18年(1590年)の正月の日に豊臣秀吉が世に初めて降り、増田右衛門尉長盛が造営した」となります。三条大橋の欄干には池田屋騒動の時の刀傷が残っていると言われている。桂小五郎と豊後、豊後が橋の上と下に別れて忍び会ったエピソードなど、この橋は数々の歴史の証人となってきました。(※)東海道伝説(徒歩)として、大正6年(1917年)4月27～29日の3日間により開催されました。



五条大橋の橋脚(石柱)と橋桁

京都国立博物館(七条大橋より東へ500m)では、秀吉が造らせた五条大橋(今の五条通りのところに架けられた橋)の初代の橋脚と橋桁、すなわち天正十七年(1589)に架けられた橋脚と橋桁の現物をこの博物館で見ることができます。それは、博物館の西南の角のお庭に展示されており、具体的に組まれた橋脚と橋桁は当時の橋の大きさを想像するのに十分な迫りがあります。また、その橋脚には「津国御影<天正拾七年/五月吉日>」という文字が刻まれており、摂津国御影、現在の神戸市東灘区御影(背後の六甲山麓から採取される花こう岩、すなわち御影石の産地として有名)から運ばれたことがわかります。隣には同年の七月付けの三条大橋の橋脚も見ることができます。出典：京都国立博物館HP



鴨川周辺散策マップ
鴨川に架かる橋を紹介します!

鴨川遊歩道
鴨川の両岸に整備された遊歩道は市民の憩いの場となっている。季節を感じながら幾つもの橋をくぐり抜け、散策するのもおもしろい!

鴨川に架かる橋ランキング 「西賀茂橋(賀茂川)～塩小路橋(鴨川)」まで

橋の年齢 ベスト3

1位	七条大橋	1913年(大正2年)
2位	荒神橋	1914年(大正3年)
3位	賀茂大橋	1931年(昭和6年)

橋の長さ ベスト3

1位	賀茂大橋	141.0m
2位	荒神橋	110.0m
3位	北大路橋	97.0m

橋の幅 ベスト3

1位	五条大橋	36.0m
2位	北大路橋	29.8m
3位	四条大橋	25.0m

橋の交通量 ベスト3 (H22道路交通センサス)

1位	五条大橋	60,172台/日(五条通)
2位	北大路橋	27,762台/日(北大路通)
3位	御池大橋	22,861台/日(御池通)

しじょうおほし
④ 四条大橋

道路名：主要市道 嵐山園線
橋の種類：鋼管橋 橋長：55m 幅員：25.0m
架設年次：昭和17年(1942年)

四条大橋といえば、三条大橋、五条大橋と並び京都を代表する橋ですが、三条・五条が街並みで公園橋(※)として両府によって整備されたのに対し、四条大橋は民衆により架設・管理された橋でした。康治元年(1142年)に初めて架橋され、明治初期には京都で初の鉄橋として注目を集めています。その後、明治末期に始まった京都三大事業を機に、現在の七条大橋と同じ構造をもつ鉄筋コンクリート製のアーチ橋が架けられました。この橋は、セセッションと呼ばれるデザイン方式でしたが、昭和10年の洪水の後、昭和17年に現在の鋼管桁橋に改築されました。昭和40年の車道部分が増設され、それと同時に戦時の金属供出によって木製となっていた高欄の付け替えが行われました。そのデザインは全国初となる一般公募(1等賞金100万円)により、左京区の会社員の応募作品が一部修正のうえ採用され、黒い鋼管製の鉄骨を覆った土台に、逆地型の白いコンクリート、その上に金色の青銅製の手すりとし、黒・白・金の三色で調和が図られたものとなりました。また、ボルト隠しには御所車をかたどった青銅製物(金メッキ)を使用するなど、繁華街にふさわしい近代的印象の中にも、京都らしさが表現されたデザインとなっています。(※)江戸幕府の管理の橋



しじょうおほし
⑤ 七条大橋

道路名：一般府道 梅津東山七条線
橋の種類：鉄筋コンクリートアーチ橋 橋長：82m 幅員：18.1m
架設年次：大正2年(1913年)

七条大橋は、京都市三大事業の一つ「道路拡張と市電敷設」による七条通の拡張に伴い、明治44年に着工し、大正2年に完成しました。平成20年度には「黎明期のRCアーチの中で群を抜いて巨大であり、鴨川筋において明治期の遺匠を残す唯一の橋として貴重な施設である」との理由で土木学会選奨土木遺産に認定されています。橋の構造は、スパン(支間の長さ)15.2m、ライズ(アーチの高さ)1.5mを基本構造とする鉄筋コンクリートのアーチ橋となっていました。京阪電鉄の地下に伴い洪水が頻発となり、洪水上の1径間が撤去されました。また、完成当時の高欄や照明灯は、戦時に金属供出のため撤去されました。昭和62年に「三十三間堂の通し」をイメージした矢車橋様の高欄に改修されました。毎年1月中旬に三十三間堂で開かれる「大約(おおま)大会」は新成人が晴れ着姿で写る行事ですが、「新成人=20歳」ということで、高欄は10本の矢の形に向かっている様子(2面で20本)をデザインしたコンセプトにしています。



鴨川の名前の由来

鴨川の名前の由来はいくつかの説がありますが、平安京造営の前から、そのほとりに住んでいた「賀茂氏」に由来しているという考え方が一般的です。賀茂氏の氏神をまつる上賀茂神社と出町付近の下鴨神社にちなんで高野川合流点より上流を「賀茂川」、下流を「鴨川」と書かれることが多いようです。(出典：京都府発行小学生向け資料「わたしたちの鴨川」より)



出典：橋の紹介は、京都市情報「京の橋るべ」
本課では、京都市の橋の歴史や補修などの情報と有名な橋を紹介した冊子「京の橋るべ」を発行しています。Web サイトにて「京の橋るべ」検索
Web ページへのQRコード